

岡谷市鮎沢区の史跡 前編

鮎澤 毅

1 鮎沢薬師堂 薬師堂が阿弥陀堂

伝承によると、平安時代初期（800年頃か）坂上田村麻呂が山中の阿弥陀堂窪に堂を開き、その後弘法大師が作った阿弥陀如来を安置したが、戦国時代織田氏の兵火で焼失、その後堂を現在地に建てたという。

堂名については、「諏訪藩主手元絵図」（一）村限村絵図ともいう）に「阿陀・薬師堂、



鮎沢阿弥陀堂

建屋へ入り撮影 令和3年2月9日 筆者撮影

「天宝13年（1842）の修復資料には「阿弥陀堂」と書かれているが、阿弥陀如来は存在しない。現在は薬師堂と呼ばれている。

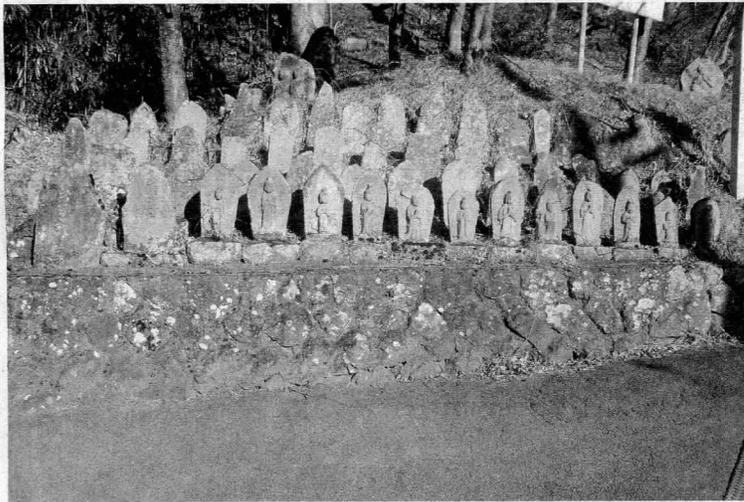
2 堂前の石造物群 多い馬頭観世音

昭和30年頃区内各地から集められた。

◆ 馬頭観世音は53基で川岸でも圧倒的に多い。文字碑41、1基で2〜3頭供養しているもの9基ある。特殊のものとして（1）馬頭大士（2）3馬頭を頭上に載せたもの（3）蚕玉桑と刻したものもある。これらの馬頭観世音多くは江戸時代から明治時代にかけて作られたものである。

◆ 馬頭観世音以外

- （1）双体像の道祖神が2基（2）石棒



戦後、鮎沢村中から集めたものである

型陰陽石（3）如意輪観音（4）蚕玉大明神（文字碑）がある。

3 鮎沢諏訪社 めずらしい6本腕の憤怒形の馬頭観音

祭神は建御名方命・八坂刀売命で諏訪大社と同じであり、また岡谷市内の神社で「諏訪社」と呼ばれているのは駒沢諏訪社と鮎沢諏訪社の2社のみである。江戸時代までは駒沢諏訪社が駒沢村と鮎沢村の産土神であった。明治41年12月「神社由緒訂正願」には「明和年中（1764〜1771）ま迄八旧鮎沢村毛当社（駒沢諏訪社）ヲ産土神トシテ崇奉セリ」（駒沢区誌）とあり、「諏訪郡旧蹟年代記」によると「――安永年中（1772〜1780）産土神分ル」とあり、鮎沢諏訪社の創立は安永年中ということになる。

現在の拝殿は、明治になって古い拝殿を囲み増築されたものである。その中の奥にある小さい拝殿が鮎沢諏訪社が最初出来た時の物である。鮎沢村が駒沢村から24軒分かれた天正年間（1573〜1590）より約200年間、鮎沢村は神社がなく駒沢村へ分担金を払い崇拝していた。その後鮎沢村に財力が出来て独立した。鮎沢村は駒沢村から分かれたと言っても親族が分かれたのではなく、鮎沢姓は（1）駿河国（静岡県）駿東郡に起る氏なり。（2）甲斐の国（山梨）巨摩郡に起る氏なり。（3）